

進 新 会

(中村 憲一 議員)

富士市との合併について

問 芝川町との合併から10年が経過し、その効果を肯定的に評価していると推察するが、今後の本格的な人口減少時代を迎える中で、富士市との合併はあるのか。

市長 当市には、すばらしい地域特性があり、それを生かした持続可能なまちづくりを進めたい。また、当市の人口13万人は、基礎自治体として適正規模なので、合併は考えていない。

市立病院の病棟の建て替えについて

問 地域包括ケア病棟完成後に、本病棟の建て替え着手はいつを予定しているのか。

市長 平成31年10月に地域包括ケア病棟を計画どおりにオープンさせるとともに、3階に整形外科病棟を再編する等、診療体制の充実と、それに伴う病院事業の収支の改善状況を注視しながら、建て替え時期を検討する。現状では、いつ建て替

えるのかは、言える段階ではない。

当市自らの再生可能エネルギー政策について

問 市民の設置に対する補助にとどまらず、地域循環共生圏及びSDGs未来都市の理念に則した、市の再生可能エネルギー政策の取り組みは。

部長 再生可能エネルギーのうち、発電事業については、市が事業主体となることは考えていないが、国が進める地域循環共生圏等のメニューには積極的に対応し、その理念に則して民間事業者が行う発電事業等の環境ビジネスの創出を支援し、地域活性化につなげていく。

地域産業の活性化について

問 特定の付加価値の高い産業を集積させ、育成する産業政策が必要では。

参事 産・学・官連携により、農業のIT利活用で最先端を達成し、農業の産業競争力向上、高品質な農産物生産、周辺産業として、農業に関する各種情報を高度に利活用するAI農業により、農家の知識産業化を実現したい。

蒼 天

(植松 健一 議員)

芝川町との合併による課題は

問 芝川町との合併から10年を迎えるが、その成果や原状の課題について伺う。

部長 稲子川温泉ユース・トリオのリニューアルや、芝川地区の施設の再利用を行った。また、移住・定住施策の推進により稲子小学校の児童数が5倍になった。芝川地区の祭りやイベントも、市内外への情報発信により、多くの方が訪れるようになった。中部横断自動車道の整備により今後、芝川地区を訪れる人を増やしたい。

子どもの居場所づくりは

問 公共施設の活用による子どもの居場所づくり、学びの場の創出の推進について伺う。

部長 本市では子育て支援の充実を図ってきた。平成31年度既存の公共施設を活用した子どもの居場所づくり、学びの場を創出するわくわくキッズスペースプロジェクトを実施する。

工業団地の必要性について

問 企業の誘致・留置の取り組みとしての新たな工業団地の必要性について伺う。

参事 多方面からの要望のあることについては認識しており、必要性を感じる。30年度は、粟倉地先の公共用地で立地可能性調査を行ったが、土砂法の課題があり断念した。31年度には、新たに山宮地先の公共用地にて、再度可能性調査の実施に向け準備を進めていく。

いじめ防止について

問 市内小・中学校において、いじめが発生している。いじめ防止への取り組みについて伺う。

部長 昨年4月にいじめ防止基本方針を策定し研修を行っている。校内いじめ対策委員会を常設で設置することとなっている。いじめを認知したら委員会に報告して組織で対応し、保護者に報告するなど、市内全校が共通理解のもとで適切な対応ができ、より一層適切な未然防止、早期発見、早期対応が可能になると考える。